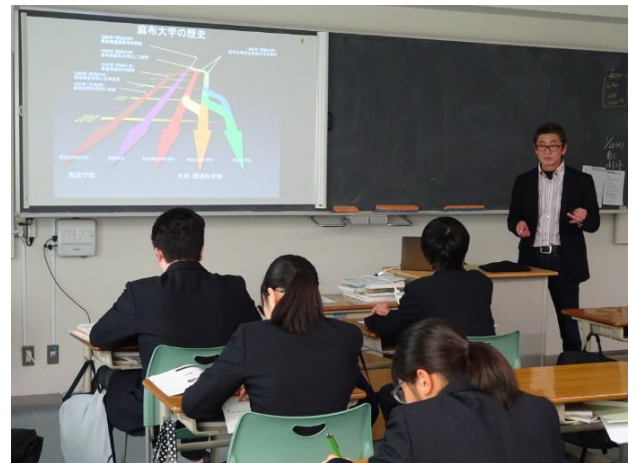


## ○麻布大学 久松伸先生による講義の様子と生徒の感想



講義名：「未来に向けて考えなければならないこと」

### 〔生徒の感想〕1年 T.Iさん

本日はお忙しい中授業をしていただきありがとうございました。授業の中で学んだことはバイオテクノロジーを利用した作物などの品種改良が必要だということです。人口増加に伴って食糧不足が懸念されることはなんとなく気にしていました。しかし、その分家畜の飼料も増えるということは全然気づいていませんでした。そこでバイオテクノロジーを利用して食糧不足を解決できる可能性があるのは、技術の進歩が為せることで凄いと感じました。昆虫食は、いくら栄養があるとはいえやはり食べるとなると抵抗を感じてしまいます。しかし、これもバイオテクノロジーによって、飼料が少なくタンパク質豊富な品種が出来上がる可能性があるということにとってもワクワクします。また、久松先生が授業でおっしゃっていた「Myostatin 遺伝子」は筋量を抑制するとわかりました。一番気になったのはニジマスの実験です。筋肉を増やすことで食べられる部分が多くなりました。一方で、自然界に体格を維持する餌があるかどうかや、他の生態系に影響を及ぼす可能性があるかと懸念されています。バイオテクノロジーを利用することは調整がとても重要であり、難しいことだとわかりました。

本日の授業で、バイオテクノロジーは食糧不足の問題の解決の糸口になり得るものであり、大いなる可能性を秘めていることがよくわかりました。バイオテクノロジーを上手く利用するのは簡単ではありませんが、可能性溢れるバイオテクノロジーには興味を持つことができました。本日は本当にありがとうございました。

### 〔生徒の感想〕1年 O.Sさん

今回の講義で、まず麻布大学の歴史についてのお話を伺いました。大学は国に必要な人材を育てるために作られているということを聞き、国のために研究する場所だと改めてわかりました。次に世界の人口と出生率の低下についてのお話を伺い、本当に真剣に考えていかないといけない問題だということを知ることができました。遺伝子組換えについては、これから食料が不足していく中でとても便利で安全なものだと感じました。しかし、遺伝子組換えによる新しいウイルスが発現する危険性や人体に影響を及ぼす可能性というものもしっかりと視野に入れておくことが必要だと考えました。また、ミオスタチンの存在を聞いた時にはとても驚きました。少し調べてみると、ミオスタチンという遺伝子の変異を使って筋肉を二倍にする実験などが行われているそうです。ヒトが新しいものを開発して新しい汚染物質が出ると、食物連鎖に影響が出て最終的にはヒトに帰ってくるので、自分たちで首を絞めてしまっているのではないかと考えました。

今回の講義で新たな認識や、真剣に取り組んでいかなければならないことなどを考えることができました。お忙しい中時間を割いて講義を行なってくださり、本当にありがとうございました。